

高次脳機能障害のある子どもに対する相談支援 あいあいセンターの取り組み



福岡市社会福祉事業団
福岡市立心身障がい福祉センター
(愛称あいあいセンター)

支援コーディネーター
理学療法士 和田 明美



あいことばは
あい



- ・ひとりひとりの**！（わたし）**が主役です。
- ・同じ悩みや障がいのある方どうしの**“出会い”**や**“ふれあい”**の場を提供します。
- ・あふれる**愛**でおこたえます。
- ・やる気と**アイデア**で福祉の輪を広げます。

こどもの利用が多いが、「心身**障がい**福祉センター」という名称に抵抗がある親が多かった

→「あいあいセンター」と愛称を作り、門をくぐりやすくした

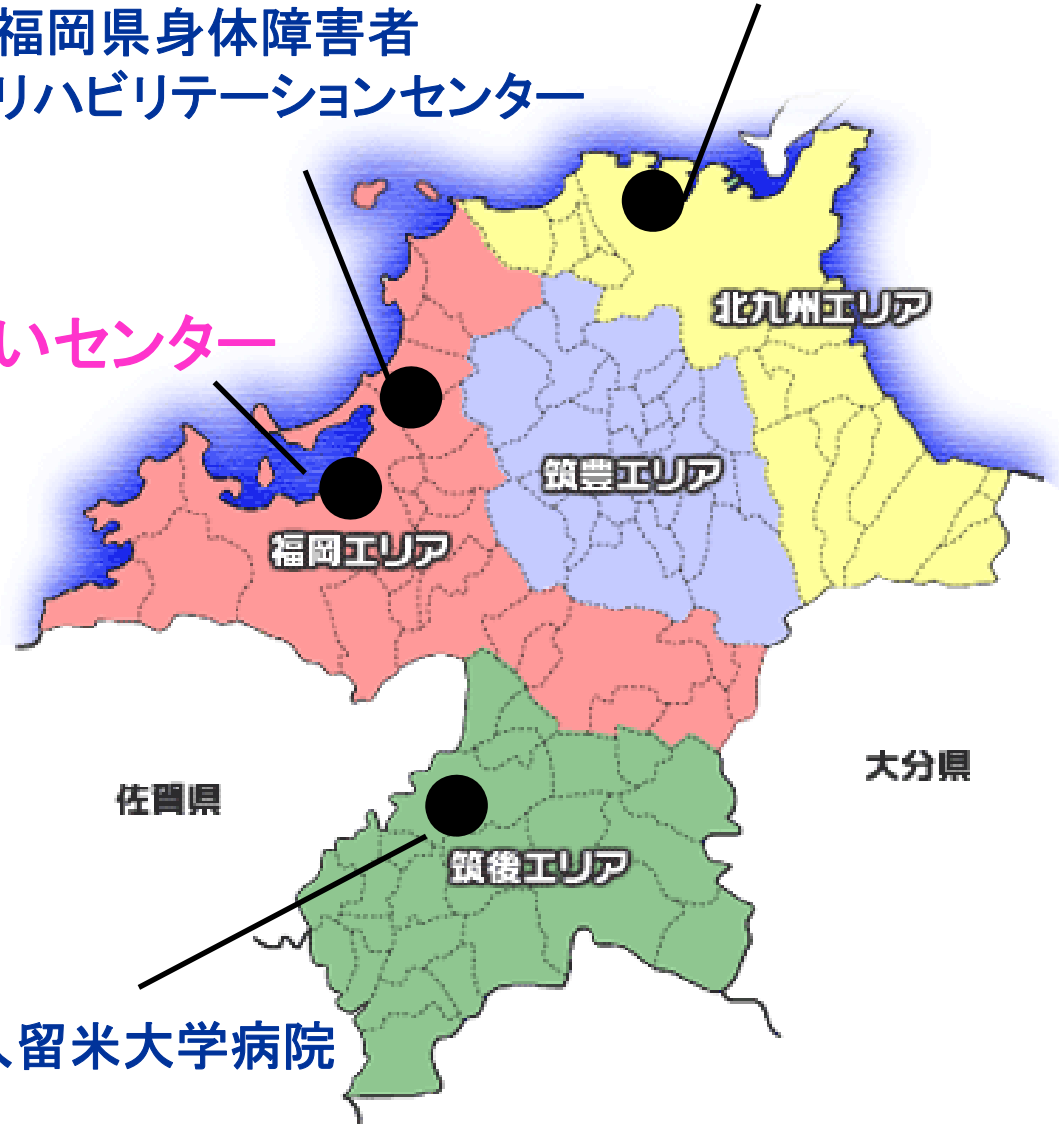
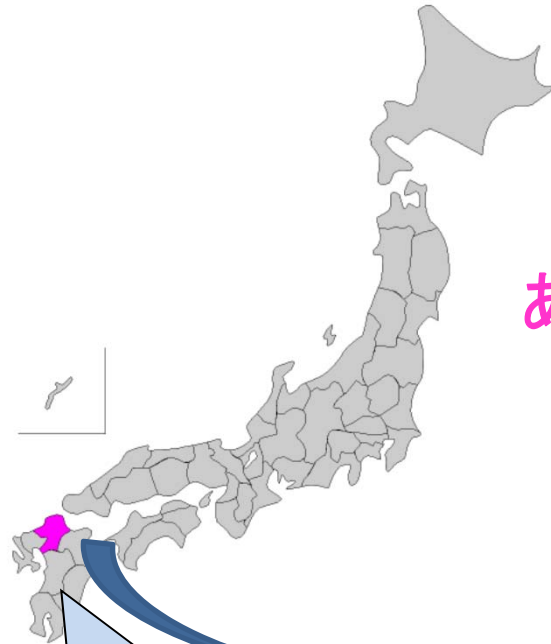
福岡県の高次脳機能障害 4 拠点機関

産業医科大学病院

福岡県身体障害者
リハビリテーションセンター

あいあいセンター

久留米大学病院



人口 509万人
4都市圏、60市町村
(2つの政令指定都市)
*福岡市 人口150万

あいあいセンターの紹介



あいあいセンターの業務

こどもの部門

乳幼児を対象にした発達に関する
相談・診断と専門的な療育

- 相談部門
- 肢体不自由児部門
- 聴覚・言語障児部門
- 視覚障害児部門
- 発達遅滞児・発達障害児部門
- 障害児相談支援事業

診療部門

- 専門医による相談診療

おとなの部門

成人のリハビリテーション

- 自立訓練事業
 - ・視覚障害者
 - ・**高次脳機能障害者**
 - ・発達障害者
 - ・肢体・言語障害者
- 障害者生活支援相談室
- 障害者基幹相談支援センター
(虐待防止センター)

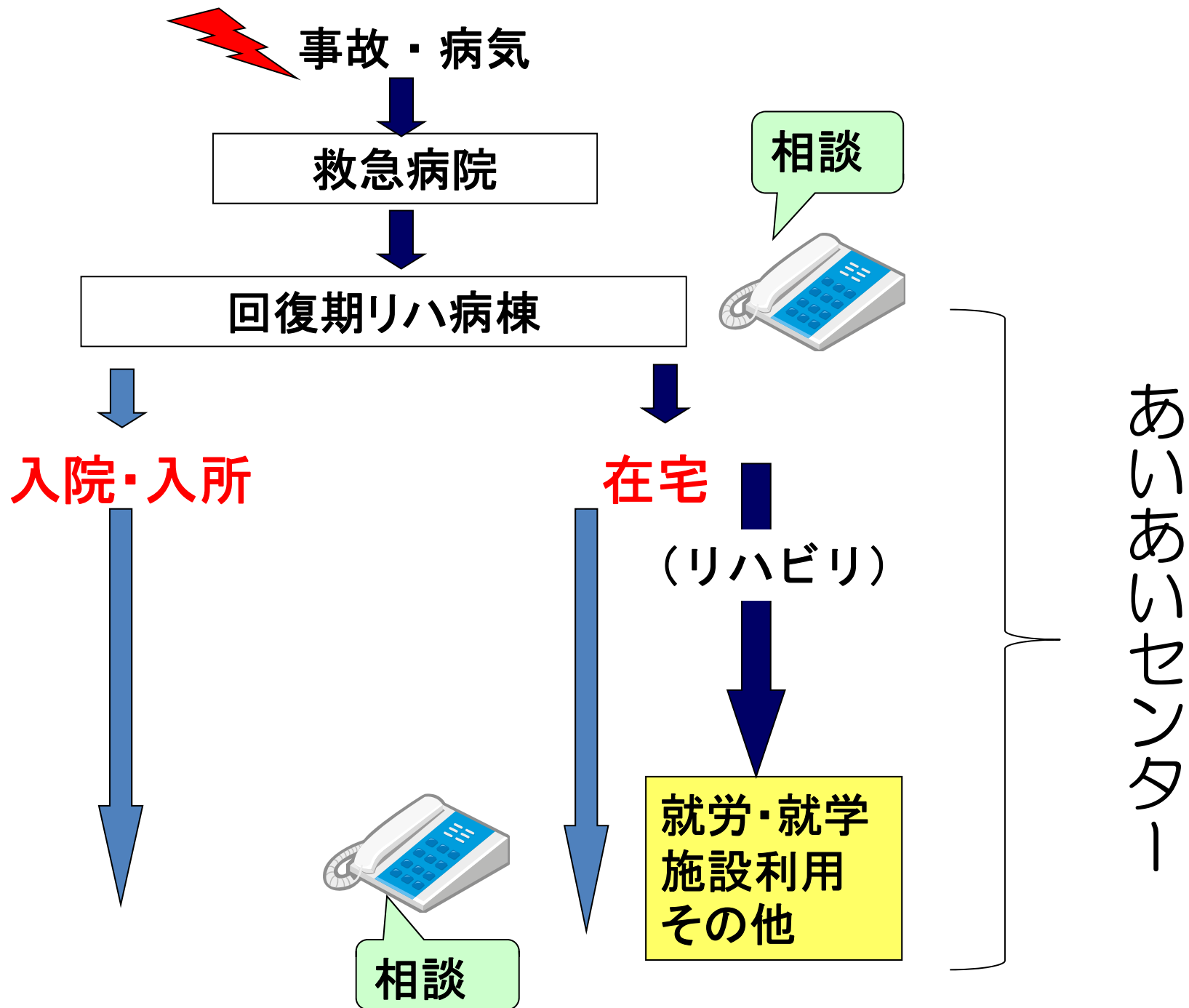
研修室・会議室等の貸出

- 研修室・会議室の貸出
- 視覚障害者用パソコンの共同利用

リハビリテーション係 肢体・言語部門の仕事

	月	火	水	木	金
午前	肢体不自由 (高次脳機能障害)	発達障害 障害者 フィットネス教室	高次脳機能障害	肢体不自由 言語障害 (高次脳機能障害)	高次脳機能障害
午後	肢体不自由 (高次脳機能障害) 更生相談所 補装具判定	発達障害	高次脳機能障害	肢体不自由 言語障害 (高次脳機能障害)	高次脳機能障害

同じスタッフが日替わりで異なる障害の自立訓練を実施している



高次脳機能障害に特化した包括的リハビリを 個別とグループを組み合わせる実施

平成25年度高次脳機能障害のリハビリを受けた人 61名

新規36名、修了者41名（多くは半年～1年半在籍）

- ・ 男46名、女15名
- ・ 脳血管障害26名、脳外傷24名、その他11名
- ・ 20代13名、30代9名、40代16名、50代19名、60代4名

16～64歳としているため、子どものリハビリはしていない

* 子どもの部門も保育やリハビリは就学前が対象

中途障害の小中学生を相談以外で対応する部門がない

私の環境や経歴

環境

- 職場には子どもの部門が多く、たくさんの子どもが利用している
- 所属する社会福祉事業団は複数の児童発達支援センター、発達障害者支援センター等障害児を支援する施設がある

経歴

- 20年間療育分野で理学療法士として勤務後、現職についた
- 障害児関係の専門職研究会の事務局に10数年携わっている

療育分野での勤務が長く、現在も周りに関係者が多い
支援コーディネーターの中では、子どもとの関わりが多い？



療育分野に近い立場から子どもの高次脳機能障害について

(福岡市では)

療育分野で高次脳機能障害は
大きな問題になっていない？

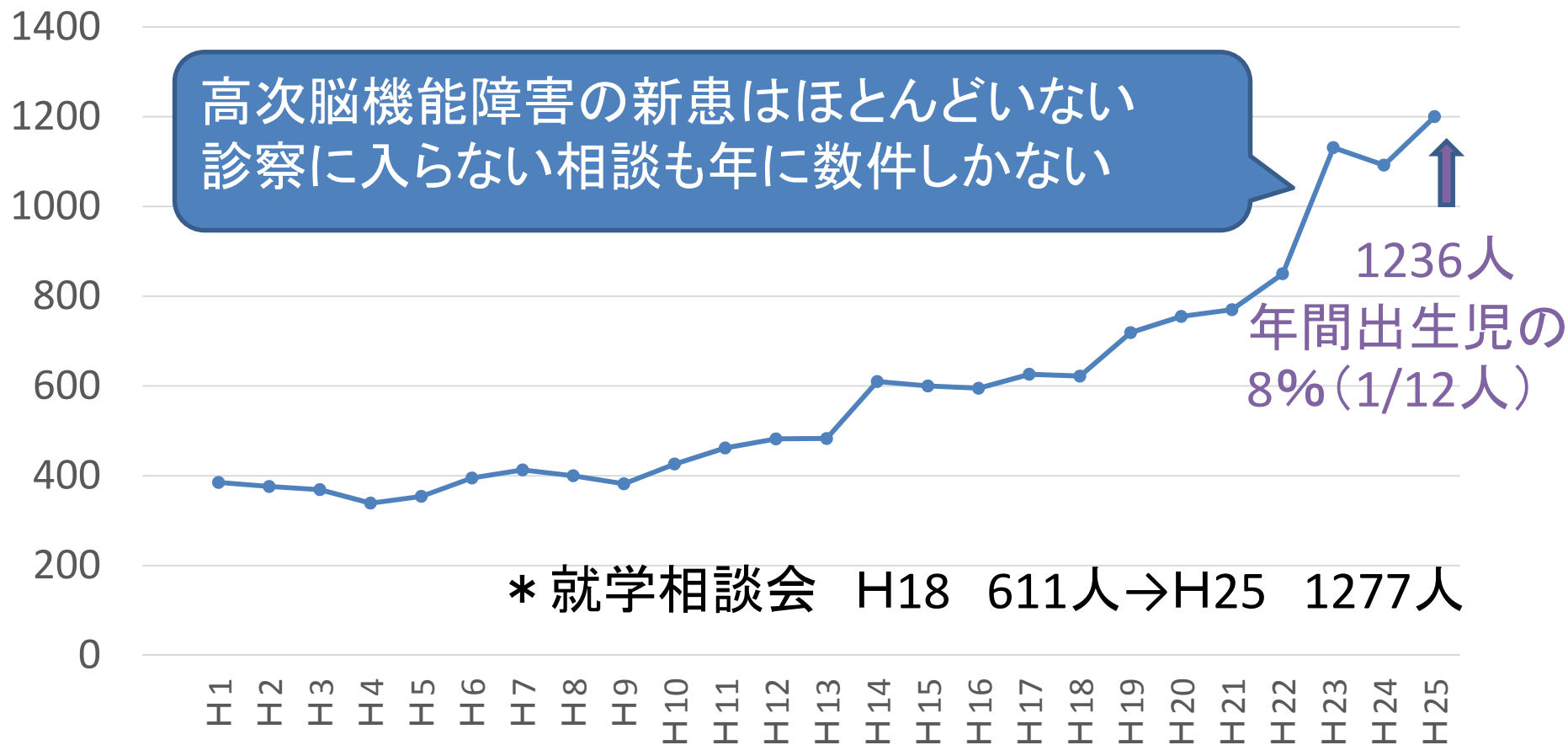
理由

- ①障害児全体の数が多い
- ②療育機関や特別支援教育につなげてこない
- ③他の障害より特に難しいと感じていない

以前障害児の専門職に講演した際の反応は、「対応経験がない」、「他の障害と対応は共通する」というものだった

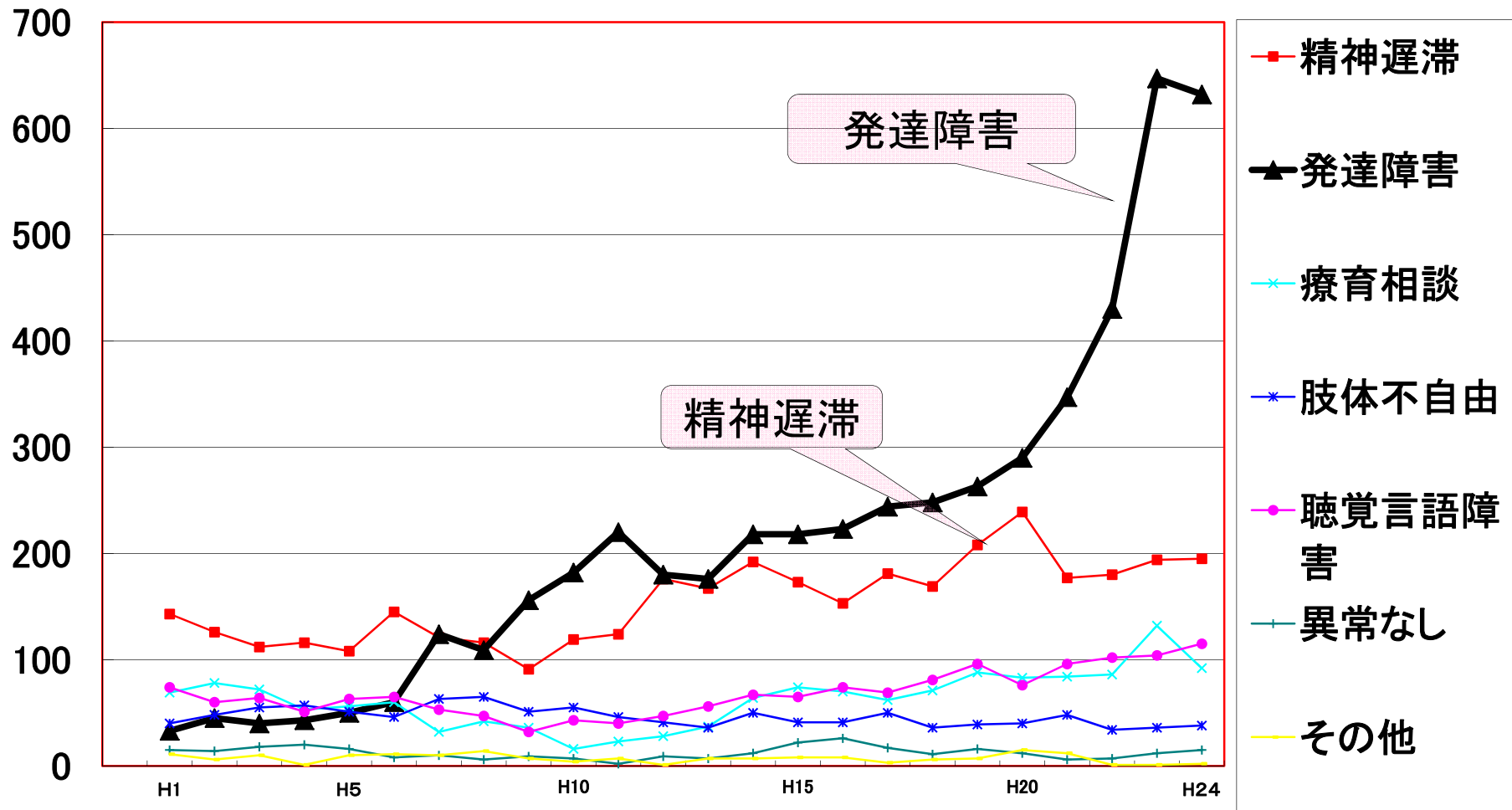
①障害児全体の数が多い

福岡市の3児童発達支援センターの新患数(H1-H25)



福岡市では障害児の数の増加が最大の問題
療育施設も特別支援学校も足りない！

障害による内訳



増えている＝近年療育現場で注目されているのは発達障害

②療育機関や特別支援教育につなげてこない

- 急性期病院→回復期リハ病院→通常学級

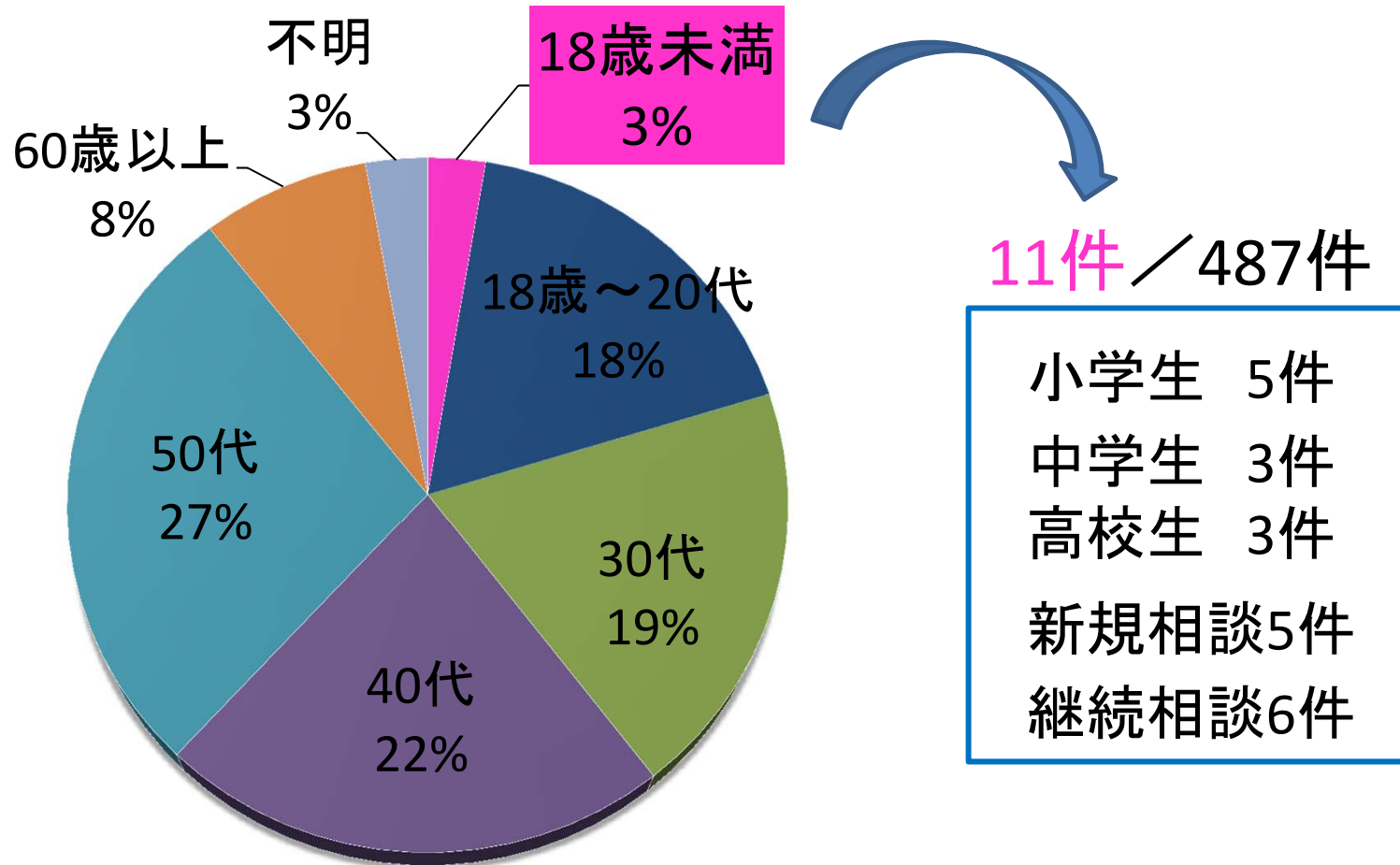
ここで院内学級に通うことはない

療育や特別支援教育のレールに乗らない
準備も支援も不十分なまま学校へ(親も子も)

適切な対応が得られないために二次障害が起こる
高次脳機能障害特有なものではなく、軽度の知的
障害や高機能の発達障害など他の障害児も同じ

拠点機関としての相談にもつなげてこない

平成25年度あいあいセンター成人部門での
高次脳機能障害相談の対象者年齢



時々ある相談



1. 病院のMSWや親戚等から
「交通事故で急性期病院に入院中
小児を受け入れている回復期の情報を教えてほしい」



情報伝え、後日家族から連絡を入れてもらうように伝える
がその後の連絡が入らない

2. 家族から
退院して学校に戻ったが、学校に行きたがらない

復学時病院から学校への情報提供は行われている様
しかし支援体制や継続的な支援が不十分な可能性がある

③他の障害より難しいと感じていない

- 高次脳機能障害児でも身体障害のある子や就学前の子は、以前から療育機関で対応されてきた
- 行動障害の対応などは、療育分野では当たり前に行ってきた
- 療育センターや特別支援学校(学級)などにつながればそれなりの対応はできる
- 他の障害のある子たちもそれぞれ難しい

私に対応してきた子どもたち

- 脳炎、脳外傷などで身体障害のある子は、昔から肢体不自由児施設で対応していた(高次脳機能障害の診断はついていない)
- 他も高次脳機能障害と共通する問題を持つ子がほとんど

脳性まひ児

- 両まひ.....視覚認知が悪い
- 片麻痺.....落ち着きがない
- アトーゼ型..感情に起伏がある

知的障害.....行動の問題

発達障害.....こだわり、不注意

など

それぞれの特性に
応じた対応を昔か
ら行っていた

中途障害or先天性障害という違いがあるが 脳障害という点では共通

そもそも

- ・どの時期以降の発症を高次脳機能障害というのか？
例) 6生月時の脳炎は高次脳機能障害？
- ・どの程度の障害を高次脳機能障害として支援するのか？
例) 低酸素脳症後身体障害を伴い全介助

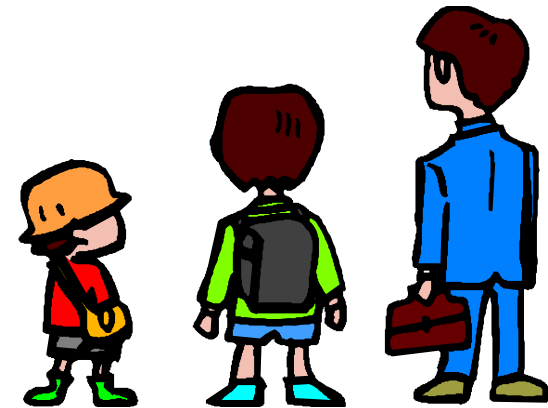
* 元々発達障害、知的障害で高次脳機能障害を重複する場合も

高次脳機能障害の特徴をふまえながら
基本はその子どもの問題に対して必要な支援を行っていく

既存の障害児への支援方法や支援体制は利用できる

高次脳機能障害の大人とは違う 子どもが抱える難しさもある

- ①退院後そのまま通常学級に戻りやすい
- ②本人も変化が大きい
- ③家族支援の要素が大きい



①退院後そのまま通常学級に戻りやすい

- 回復途中で戻ることになり、準備ができていない
 - 親の障害受容や適切な対応を学ぶ時間としても不足
- 特別支援教育は親や本人の希望で強く勧めない傾向あり
- 休んでいる間に周りの子どもは発達している(中学までは休んでも学年が上がる)、復学後頑張っても差が広がる
- 前とのギャップに対して、周りも本人もどうしたらよいかわからない

* 大人が復職する場合

退院後時間をかけて復職することが多い

障害者手帳をとって障害枠での就労を勧めることが多い

休職中や復職後の周りの変化は比較的ゆっくり

②本人も周りも変化が大きい

- 環境が頻繁に変わる

幼稚園・保育園→小学校→中学校→高校→

クラス替え、席替え

変わるたびに配慮や支援が必要

* その子だけが大変なわけではない

- ライフサイクルが長い

乳幼児期→学齢期→成人期→

↑
思春期の問題

☆その時の支援だけでなく、将来を見通した支援が必要

③ 家族支援の要素が大きい

先天性の障害児の親と違う苦悩がある

- 突然の我が子の変化にショックが大きい
- 以前の元気だった頃と比べてつらい
- 事故や病気になったことの原因を感じる
- 同じような立場の親子に出会う機会がほとんどない
- 相談機関や支援体制が整っていない

大人以上に家族の影響が大きい、現在は家庭の育児機能や家族機能そのものが低下している

↑
ここにも支援が必要

あいあいセンターでの取り組みの現状

これまでの相談対応

- ・面談
- ・評価
- ・他機関との連絡調整
- ・学校訪問
- ・関係機関とケース会議

← 子どもの相談が入った時は、療育部門の相談担当者に連絡を取り、できるだけ面談に同席してもらう

☆高次脳機能障害の理解や対応に関する部分は支援コーディネーターが担当し、実質的な連絡調整や家族を含めた支援は児童部門で担当してもらうことが多い。

* 啓発 市の養護教諭研究会と福岡発達・障害懇話会での講演

福岡市で子どもの相談時に 連携できそうな機関や人

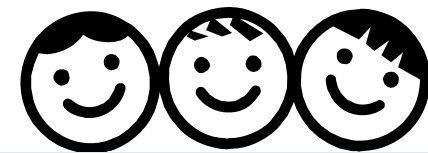
- 教育（発達教育センター、学校など）
担任、養護教諭、支援員、特別教育コーディネーター
スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー
- 医療機関（病院）
MSW、リハスタッフ、医師
- 療育機関（児童発達支援センター、放課後等デイサービスなど）
保育園・幼稚園への訪問支援保育士
相談支援専門員、医師、リハスタッフ、保育士
- 行政（児童相談所、各区の子育て支援課など）
- その他
福岡・翼の会（家族会）、自立支援協議会
保健師、ボランティア

など

今後に向けて

いろいろ課題がありますが、

療育分野との情報交換しながら支援体制を作っていきたいと思います



福岡市以外の地域でも、その地域ごとに障害児に関する支援機関や支援体制があり、力になってくれると思われれます。